

第9章 青少年のための 施設の整備

第9章 青少年のための施設の整備

第1節 社会教育関係施設

1 青森県総合社会教育センター

県では、社会教育の充実振興を図り、県民の生涯にわたる学習意識の高揚及び学習活動の進展に資するために、平成元年7月1日、青森県総合社会教育センターを設置した。

センターでは、団体間の連携による活動を促進するため、団体連絡室を設けて青少年団体の利用に供したり、青少年教育にかかわる事業を展開したりしている。

(1) 運営方針

① 人材育成

地域を支える人材や次代を担う青少年を育成するため、受講者の実践活動を含め専門的、実践的な研修を行う。

② 教育活動支援

家庭や地域の教育力の向上を図るため、地域づくりや家庭教育支援の人材育成に関する専門的、実践的な研修を行う。

③ 市町村・団体支援

生涯学習、社会教育関係職員の資質向上及び社会参加活動を推進するため、生涯学習、社会教育に関する専門的な研修や社会参加活動支援機関の研修と情報交換を行う。

④ 生涯学習活動支援

県民の学習活動や社会参加活動を支援するため、生涯学習、社会教育に関する情報提供、学習相談を行うとともに、今日的課題や生涯の各時期における課題に対応した学習講座や文化活動を行う。

⑤ 施設提供

社会教育及び県民の学習活動のために研修施設・視聴覚機材を提供する。

(2) 平成25年度の事業の実績

① 未来の青森県を担う若人育成講座

青少年が自らの思いを社会の中で実現させる行動力を身につけることを目的とし、学校や地域活動でリーダー的役割を担っている中・高校生を対象に、青少年の自主性やリーダーの資質を高める講座を開催した。

【平成25年11月30日現在の実績】

ア 受講者数：東青・下北地域 53人、交流地域参加者 23人

イ 内 容

期 日	内 容
第1講座：自分や仲間のよさを知る講座	
6月29日(土) ～30日(日) むつ市(合同)	演習「人間関係づくり」 指導：青森県総合社会教育センター職員 講義「全力をつくすこと、困難に立ち向かう、自分を認め、チャレンジすることの大切さ」 講師：長野・ソルトレイクパラリンピック日本代表 田中 哲也 講義・演習「地域活動とものづくりについて」 指導：青森県総合社会教育センター職員
第2講座：企画・運営方法を学ぶ講座	
7月14日(日) むつ市(下北)	講座「コミュニケーション力を知る」 講師：八戸学院大学副学長 ビジネス学部長 教授 丹羽 浩正 講座「青少年の地域活動について」 講師：曹洞宗円祥山大安寺 僧侶 長岡 俊成
7月21日(日) 平内町(東青)	講座「コミュニケーション力を知る」 講師 弘前大学学生就職支援センター 副センター長 准教授 小磯 重隆

	講座「青少年の地域活動について」 講師：平内町子ども会育成連絡協議会 田中 聡
第3講座：地域の実践活動を体験し、仲間と企画を立てる講座	
7月27日(土) ～28日(日) 平内町(合同)	地域活動体験(伝統芸能体験/地域特産品食品加工体験/農業野菜収穫体験/酪農乳牛の世話、搾乳体験) 演習「団体実践活動企画立案とシミュレーション①」 指導：青森県総合社会教育センター職員
第4講座：各地域でのプレ実践活動	
9月7日(土) 平内町(東青)	演習「個人の実践活動を企画する」「団体実践活動シミュレーション②」 「企画・運営について」 指導：青森県総合社会教育センター職員 助言者：平内町子ども会育成連絡協議会 田中 聡
9月14日(土) むつ市(下北)	演習「個人の実践活動を企画する」「団体実践活動シミュレーション②」 「企画・運営について」 指導：青森県総合社会教育センター職員 助言者：曹洞宗円祥山大安寺 僧侶 長岡 俊成
第5講座：各チームにおける実践活動とふりかえり	
10月5日(土) 青森市(合同)	青森県総合社会教育センター 生涯学習フェア2013 企画実践「各チームにおける実践活動」
第6講座：地域での実践活動企画(個人)	
11月2日(土) 平内町(東青)	演習「自分の地域実践活動発表と相互アドバイス」 指導：青森県総合社会教育センター職員 講義「地域活動『東北 Techno music festival 清水目音夜祭』について」 講師：上十三若者ネットワーク「9根」実行委員長 原田 惇
11月3日(日) むつ市(下北)	演習「自分の地域実践活動発表と相互アドバイス」 指導：青森県総合社会教育センター職員 講義「『わいLOVEむつ』から『わいどLOVEむつ』へ」 講師：青森社会福祉振興団特別養護老人ホームみちのく荘 人材部 向井 正大
第7講座：隣接地域との交流	
12月14日(土) ～15日(日) 東北町(合同)	演習「人間関係づくりの体験プログラム」 指導：青森県総合社会教育センター職員 活動発表「これまでの企画実践紹介」 講義・演習「カプラによる人づくり」 指導：カプラ名人 金澤 正博

② 高大連携キャリアサポート推進事業

高校生が自らの夢の実現に向かって主体的に行動するように、所定の研修を修了した大学生からの働きかけにより、高校生のやる気や意欲を引き出し、チャレンジする心を育むためのワークショップを計画的に実施した。

【平成25年11月30日現在の実績】

(1) 会議等の開催

- ア 実施校担当者会議(5月22日)
- イ 大学生会議(5月12日、9月29日)
- ウ 関係者研修会(実施校担当者等研修会 11月27日)

(2) 大学生対象研修会の開催

- ア 基本研修（計8回）延べ受講者数：207名
- イ 応用研修（計2回）受講者数：31名

(3) ワークショップ「キャリアサポ」の実施

- ア 実施高等学校数 22校
- イ 延べ参加高校生数 3,448名
- ウ 延べ参加大学生数 894名

③ 高校生スキルアッププログラム推進事業

高校生の知識や経験の幅を広げるとともに、社会の変化に柔軟に対応し逞しく生きるための様々なスキルの向上を図ることを目的として、学校外における学習への積極的な取組みを推進するため、学校外学習の機会に関する情報の収集と提供、高校生スキルアップ認定証の交付及び研修会を開催した。

【平成 25 年 11 月 30 日現在の実績】

(1) 研修会

- ア 期 日：11月27日（水）
- イ 会 場：青森県総合社会教育センター
- ウ 参加者：高校生スキルアッププログラム担当教員 27校29名
- エ 内 容：【講演】「進学とキャリア形成」 講師 八戸学院大学 副学長 ビジネス学部長 教授 丹羽 浩正
 【事例発表】 高校生スキルアッププログラム推進事業
 青森県立田名部高等学校 臨時講師 宮野 健一
 高大連携キャリアサポート推進事業
 青森県立弘前中央高等学校 教諭 野呂 直宏

(2) 参加学校数等

地区	参加学校数	参加生徒数	認定証交付者数
東青	5校	954名	2名
西北	1校	4名	0名
中南	3校	49名	1名
上北	1校	10名	1名
下北	2校	420名	16名
三八	5校	843名	1名
合計	17校	2,280名	21名

④ あおもり県民カレッジ運営業務

県民の学習ニーズが多様化・高度化する中、興味・関心の高いテーマについて体系的・継続的に学習し、その学習成果が社会から適切に評価され、学習成果を生かして社会参加できることを目的として、県民の生涯学習を総合的に支援した。（指定管理者による実施）

【平成 25 年 11 月 30 日現在の実績】

- ア 県民カレッジ学生総数 797人（累積 16,656人）
 - ・教養学習コース 442人（累積 15,028人）
 - ・子どもカレッジコース 355人（累積 1,628人）
- イ 県民カレッジ卒業・認定者数 349人（累積 4,478人）
- ウ 連携機関数 33機関（累積 593機関）

⑤ 学校と地域の協働実践セミナー

未来を担う子どもたちを健全に育成するため、地域ぐるみで子どもたちを育む意識や主体的な取組を啓発するとともに、学校と地域の協働を推進する人材及び子どもたちの育成に関わる活動実践者を養成することを目的として、子どもと関わる地域活動実践者、地域住民、教職員などを対象に講義、事例発表、演習及び研修を実施した。

【平成 25 年 11 月 30 日現在の実績】

ア 研修会

地区	開催日	会場	参加人数	主な内容
上北	6月19日(水)	三沢市公会堂	34名	【講義】 「学校と地域が共に支え合うこれからの教育活動」 講師 青森県立保健大学 准教授 浅田 豊
西北	6月25日(火)	五所川原市民 学習情報センター	31名	【講義】 「子どもの育成を担う学校、家庭、地域の役割」 講師 弘前大学 客員教授 齋藤 厚
三八	7月9日(火)	八戸市福祉公民館	31名	【講義】 「子どもの成長を地域全体で支えるということ」 講師 弘前大学生涯学習教育研究センター 講師 深作 拓郎
東青	10月9日(水)	県総合社会教育 センター	27名	【講義】 「学校と地域が共に支え合うこれからの教育活動」 講師 小平市立学校学校支援コーディネーター 連絡協議会 会長 布 昭子
下北	10月23日(水)	下北文化会館	16名	【講義】 「学校と地域が共に支え合うこれからの教育活動」 講師 青森県立保健大学 准教授 浅田 豊
中南	10月31日(木)	弘前市総合 学習センター	21名	【講義】 「子どもの成長を地域全体で支えるということ」 講師 弘前大学生涯学習教育研究センター 講師 深作 拓郎

イ 公開講演・パネルディスカッション

(ア) 開催日：8月20日(火)

(イ) 会場：県総合社会教育センター

(ウ) 参加人数：118名

(エ) 内容：「学校・家庭・地域の連携による教育の推進」

～子どもの育成に多くの人を巻き込む仕組みづくり～

(講師・パネリスト) 横浜市立東山田中学校コミュニティハウス 館長 竹原 和泉

(ファシリテーター) 弘前大学生涯学習教育研究センター 講師 深作 拓郎

(パネリスト)	前五所川原市中央公民館長	春藤 篤子
	八戸市立小中野小学校 学校支援コーディネーター	平間 恵美
	八戸市立小中野中学校 学校支援コーディネーター	中村 智子

⑥ 家庭教育支援コンテンツ制作事業

子育てに関わる人々の抱える不安や悩みを払拭し、家庭教育の重要性を広く知らせることを目的として、家庭教育支援コンテンツ及び家庭教育支援教材を制作し、ホームページでの配信や関係機関へDVD教材として配付を行った。

【平成25年11月30日現在の実績】

ア 家庭教育支援コンテンツ (5分)

- ・40代の子育ては大変?
- ・農業家族の支えあい
- ・親子で感動 (美術館編)

イ 家庭教育支援啓発教材 (15分)

- ・郷土の芸能で育む心と絆

⑦ 家庭教育相談事業 (すこやかほっとライン)

- ・就学前児童から高校生までの子育て・孫育て中の親と家族からの家庭教育に関する相談
- ・電話相談 週2回 火・木曜日(祝日・年末年始を除く)、
メール相談(24時間受付)、面談(予約制)

家庭教育支援員 5名

相談件数：19件 (平成25年11月30日現在)

⑧ 絆でつながる家庭教育支援セミナー

地域課題を解決していけるような地域密着型の家庭教育支援者を育成することを目的として、各市町村に出向いて支援者育成講座を実施した。

【平成25年11月30日現在の実績】

○内容 基礎コース開催市町村と応用コース開催市町村の2つのコースが交流しながら講座の企画・運営について学ぶ。

○場 所：県内4市町村(2地区各2市町村)

- ・三八地区 五戸町—基礎コース
南部町—応用コース
- ・中南地区 大鰐町—基礎コース
藤崎町—応用コース

○参加者：受講者数 81名 実践活動参加者数 251名 (平成25年11月30日現在)

- ア 基礎コース
- 1 家庭教育基礎講座(家庭教育の現状と課題等)
 - 2 応用コースのプログラム実践参加(評価)
 - 3 プログラムづくり講座(入門編)
 - 4 プログラム実践
 - 5 基礎スキルアップ講座(プログラム実践を受けて)
 - 6 共通スキルアップ講座(応用コースと共通)

- イ 応用コース： 1 プログラムづくり講座(応用編)
 2 プログラム実践
 3 応用スキルアップ講座(プログラム実践を受けて)
 4 基礎コースのプログラム実践参加(評価・助言)
 5 基礎スキルアップ講座の運営(講師・運営)
 6 共通スキルアップ講座(基礎コースと共通)

開催地区・コース	回	開催日	内 容
三八地区	基礎コース (五戸町会場)	1	5月21日(火) 講義 『子育て親育ち』～家庭教育を考える～ 講師 青森県立保健大学 教授 中村 由美子
		2	6月29日(土) 応用コースに参加 活動実践 親子で ホップ! ステップ! ダンス! 講師 バトンチームAries (アリエス) 小笠原 祐子
		3	7月2日(火) 演習 「絆づくりプロジェクト」～地域に受け入れられるプログラムづくり基礎編～ 講師 県総合社会教育センター職員
		4	8月24日(土) 活動実践 くつろぎサロン～夏の疲れを癒しましょう。さあリフレッシュして子育て!!～ 講師 あんよ・セラピー共育研究会 代表 境 江利子 整体師 宮崎 一枝 青森バルーン集団 ねじりんご 大南 累世
		5	8月28日(水) 応用コースと共通 講義・演習 「心によりそうカウンセリング」～カウンセリングに大切なこと～ 講師 上級教育カウンセラー 佐々木 順子
		6	9月6日(金) 応用コースと共通 講義・演習 「子どもの育ちと親の学びを支えるー地域ぐるみの子育ち・子育て支援について考える」 交流会 「お茶べり場」地区の家庭教育支援をコーディネートしようよっ! 講師 弘前大学生涯学習教育研究センター 講師 深作 拓郎
	応用コース (南部町会場)	1	5月27日(月) 演習 「絆づくりプロジェクト」～地域に受け入れられるプログラムづくり応用編～ 講師 県総合社会教育センター職員
		2	6月29日(土) 活動実践 親子で ホップ! ステップ! ダンス! 講師 バトンチームAries (アリエス) 小笠原 祐子
		3	7月20日(土) 講義 「若い世代を取り込むためのアピールのあり方」 演習 「時と場に応じた読み聞かせの仕方」 講師 NPOはちのへ未来ネット(こどもはっち) 代表 平間 恵美
		4	8月24日(土) 基礎コースに参加 活動実践 くつろぎサロン～夏の疲れを癒しましょう。さあリフレッシュして子育て!!～ 講師 あんよ・セラピー共育研究会 代表 境 江利子 整体師 宮崎 一枝 青森バルーン集団 ねじりんご 大南 累世
		5	8月28日(水) 基礎コースと共通 講義・演習 「心によりそうカウンセリング」～カウンセリングに大切なこと～ 講師 上級教育カウンセラー 佐々木 順子
		6	9月6日(金) 基礎コースと共通 講義・演習 「子どもの育ちと親の学びを支えるー地域ぐるみの子育ち・子育て支援について考える」 交流会 「お茶べり場」地区の家庭教育支援をコーディネートしようよっ! 講師 弘前大学生涯学習教育研究センター 講師 深作 拓郎

中 南 地 区	基礎 コ ー ス （大 鱒 町 会 場）	1	8月19日（月）	講義 『子育て親育ち』～家庭教育を考える～ 講師 青森県立保健大学 教授 中村 由美子
		2	9月29日（日） 応用コースに 参加	活動実践 不思議ワールド ～家族で楽しむ科学マジックの秘密～ 講師：日本教育文化研究所 理事 神田 昌彦
		3	10月1日（火）	演習 「絆づくりプロジェクト」～地域に受け入れられるプログラムづくり基礎編～ 講師 県総合社会教育センター職員
		4	11月10日（日）	活動実践 男子厨房に入って料理を作ろう！～男の手料理で家族を笑顔に～ 講師：おおわに自然村 三浦 隆史 佐々木魚店 阿部 秀昭 エステサロンほほえみ 山内 美恵子、齊藤 美子 わにっこわくわく読書会 黒石 洋子、前田 久子
		5	11月26日（火） 応用コースと 共通	事例発表 「笑顔が見たくて ～出会いがはじまり～」 講師 一関市教育委員会 社会教育指導員 齊藤 裕美 講義：「子ども、家族のチカラに寄り添う支援とは」 講師：岩手県立大学社会福祉学部 准教授 一般社団法人 子どものエンパワメントいわて 代表理事 山本 克彦
	応 用 コ ー ス （藤 崎 町 会 場）	1	8月23日（金）	演習 「絆づくりプロジェクト」～地域に受け入れられるプログラムづくり応用編～ 講師 県総合社会教育センター職員
		2	9月29日（日）	活動実践 不思議ワールド ～家族で楽しむ科学マジックの秘密～ 講師 日本教育文化研究所 理事 神田 昌彦
		3	10月19日（土）	講義・演習 「一時預かり事業の心得」 講師：NPO 法人むつ下北子育て支援ネットワークひろば 代表理事 小川 千恵
		4	11月10日（日） 基礎コースに 参加	活動実践 男子厨房に入って料理を作ろう！～男の手料理で家族を笑顔に～ 講師：おおわに自然村 三浦 隆史 佐々木魚店 阿部 秀昭 エステサロンほほえみ 山内美恵子、齊藤 美子 わにっこわくわく読書会 黒石 洋子、前田 久子
		5	11月26日（火） 基礎コースと 共通	事例発表 「笑顔が見たくて ～出会いがはじまり～」 講師 一関市教育委員会 社会教育指導員 齊藤 裕美 講義：「子ども、家族のチカラに寄り添う支援とは」 講師：岩手県立大学社会福祉学部 准教授 一般社団法人 子どものエンパワメントいわて 代表理事 山本 克彦

2 青少年教育施設

青少年に、自然の中での集団による共同生活等を経験する機会を提供する施設として、少年自然の家、青年の家が整備されている。

県では、少年自然の家を、昭和46年、五所川原市に県立梵珠少年自然の家、51年に八戸市に県立種差少年自然の家、55年にむつ市（旧下北郡大畑町）に県立下北少年自然の家を相次いで開設した。

この他に、上北地方教育・福祉事務組合が昭和47年に公立小川原湖青年の家を東北町（旧上北郡上北町）に設立している。

これらの施設では、施設が自ら企画・実施する主催事業及び学校・各種青少年団体等の計画に基づいて実施する受入事業が行われており、その自然環境を生かした自然体験活動やレクリエーションのほか、各種研修が行われている。

また、県立少年自然の家では県内各地において身近な自然を利用した自然体験活動が促進されるように、平成19年度より学校・各種青少年団体等への出前講座を実施している。

近年、子どもたちの「生きる力」を育むため、自然体験・生活体験が重視される中において、青少年教育施設の役割はますます増大している。

本県における少年自然の家、青年の家の施設状況及び年間延利用者数については以下の表のとおりである。

第9-1-1表 少年自然の家、青年の家施設状況

名称	敷地面積 (㎡)	建物面積 (㎡)	収容人員 (人)	野 外 施 設
県立梵珠少年自然の家	6,514	2,187	160	野営場、営火場、梵珠山登山コース、各種活動プログラムコース
県立種差少年自然の家	65,977	3,488	200	野営場、営火場、自然観察コース、オリエンテーリングコース
むつ市下北自然の家	122,432	3,740	193	野営場、営火場、野外炊事場、野外食卓、登山・ハイキングコース、スキーコース、トレッキングコース、冒険の森アスレチック
公立小川原湖青年の家	70,444	4,396	200	野営場、営火場、多目的グラウンド、ウォークラリー、サイクリングロード

資料：生涯学習課

第9-1-2表 少年自然の家、青年の家年間延利用者数

(単位：人)

区分	年度	H20	H21	H22	H23	H24
県立梵珠少年自然の家		21,317	20,017	19,375	20,065	19,765
県立種差少年自然の家		25,784	20,907	24,536	29,693	28,840
むつ市下北自然の家		11,001	10,506	12,109	11,472	9,237
公立小川原湖青年の家		25,883	23,214	23,185	20,935	20,706

(注) 県立下北少年自然の家は平成20年度からむつ市へ移管しむつ市下北自然の家となった。

資料：生涯学習課

3 公民館

公民館は、地域における青少年の自主グループの育成や学習・レクリエーションの機会と場を提供するなど青少年の地域活動の拠点となっている。このため、県は地域住民と一体となった公民館活動の推進や、その指導体制の充実について指導助言に努めている。

本県の公民館は、平成25年4月1日現在、県内39市町村に設置されており、その総数は290館である。これを本館、分館別にみると本館177館（中央館40館、地区館137館）、分館113館となっている。

青少年の多様な学習要求への対応や、余暇の健全な活用に資する新たなプログラムの開発、各施設間の連携・協力、学習情報の提供などが積極的に行われることが望まれる。

4 図書館

図書館は、青少年が自らすすんで学習するための資料や情報を収集・保存し、提供する役割を持っている。

県立図書館を含めた県内の公立図書館は、平成25年4月1日現在で、独立館が24館、分館が11館、分室が2室設置され、類似施設として、市町村公民館図書室及び教育委員会図書コーナーが32か所、配本所が1か所設置されている。

これら施設では、青少年の健全育成を図る上からも、青少年に関する資料の充実やおはなし会の開催、学校への配本など様々な取組みが行われている。

また、県立図書館と市町村立図書館等をオンラインで結ぶ「青森県図書館情報ネットワークシステム」による相互貸借等のサービスも活用されている。

第9-1-3表 県内の図書館（平成25年4月1日現在）

区分	施設名			
独立館 (24)	青森県立図書館	三沢市立図書館	板柳町民図書館	東北町立図書館
	青森市民図書館	むつ市立図書館	中泊町図書館	六ヶ所村民図書館
	弘前市立弘前図書館	平川市平賀図書館	野辺地町立図書館	おいらせ町立図書館
	八戸市立図書館	平川市尾上図書館	七戸中央図書館	三戸町立図書館
	五所川原市立図書館	平内町立図書館	六戸町立図書館	五戸町図書館
	十和田市民図書館	藤崎町図書館	横浜町民図書館	田子町立図書館
分館 (11)	弘前市立岩木図書館	伊藤忠吉記念図書館	むつ市立図書館大畑分館	六ヶ所村民図書館泊地区公民館分館
	八戸市図書情報センター	五所川原市立図書館市浦分館	むつ市立図書館脇野沢分館	六ヶ所村民図書館千歳平地区公民館分館
	八戸市立南郷図書館	むつ市立図書館川内分館	六ヶ所村民図書館中央公民館分館	
分室(2)	弘前市立弘前図書館駅前分室	東北町立図書館乙供分室		
公民館等 (32)	青森市浪岡中央公民館	今別町立中央公民館	西日屋村中央公民館	おいらせ町立中央公民館
	スポカルイン黒石図書コーナー	蓬田村ふるさと総合センター	常盤生涯学習文化会館	大間町立公民館
	黒石ほるぷ子ども館	外ヶ浜町中央公民館	常盤ふるさと資料館あすか	風間浦村中央公民館
	つがる市生涯学習交流センター「松の館」	外ヶ浜町平館公民館	大鰐町中央公民館	佐井村中央公民館
	つがる市森田公民館	外ヶ浜町三厩公民館	田舎館村中央公民館	南部町立中央公民館
	つがる市稲垣公民館	日本海拠点館あじがさわ	鶴田町公民館	南部町立福地公民館
	つがる市牛潟公民館	「太宰の宿」ふかうら文学館	中泊町日本橋センター（中泊町教育委員会小泊事務所）	階上道仏公民館
	平川市碓ヶ関公民館	深浦町岩崎公民館	七戸中央公民館	新郷村役場山村開発センター（新郷村教育委員会）
配本所(1)	弘前図書館相馬ライブラリー			

資料：生涯学習課

5 体育施設

① 公共的社会体育施設

平成20年度における県内の公共的スポーツ施設の設置状況は、第9-1-4表のとおりである。これを施設別に見ると、最も多いのが体育館（124カ所）であり、次いで野球場・ソフトボール場（86カ所）、庭球場（76カ所）の順になっている。

第9-1-4表 種類別社会体育施設数

陸上競技場	野ソフトボール場	ソフテック	球技場	多目的運動広場	水泳プール	レジャープール	体育館	柔道場	剣道場	柔剣道場	庭球場	相撲場	弓道場	トレーニング場	ゲートボール場	スキー場	キャンプ場	海水浴場	その他体育施設	合計
29	86	14	75	75	6	124	13	7	12	76	26	9	39	53	23	48	16	74	805	

資料：スポーツ健康課

② 学校体育施設の開放

平成24年度における県内の公立学校体育施設の開放状況は、第9-1-5表のとおりである。これを開放形態で見ると、開放を実施している施設の割合は、屋外運動場が61.1%、プールが3.0%、体育館が72.3%、武道館が20.4%となっている。

第9-1-5表 学校体育施設の開放形態と頻度

(単位:校)

施設区分 学校区分	屋外運動場			水泳プール(屋外)		水泳プール(屋内)		水泳プール	体育館			武道場			
	設置校数 (A)	開放校数 (B)	開放率 (B)/(A)	設置校数 (C)	開放校数 (D)	設置校数 (E)	開放校数 (F)	開放率 ((D)+(F))/ ((C)+(E))	設置校数 (G)	開放校数 (H)	開放率 (H)/(G)	設置校数 (I)	開放校数 (J)	開放率 (J)/(I)	
公立小学校	本校	313	234	74.8%	151	3	1	1	2.6%	312	263	84.3%	0	0	-
	分校	0	0	-	0	0	0	0	-	0	0	-	0	0	-
	計	313	234	74.8%	151	3	1	1	2.6%	312	263	84.3%	0	0	-
公立中学校	本校	159	94	59.1%	29	2	0	0	6.9%	161	126	78.3%	59	22	37.3%
	分校	0	0	-	0	0	0	0	-	0	0	-	0	0	-
	計	159	94	59.1%	29	2	0	0	6.9%	161	126	78.3%	59	22	37.3%
公立高等学校	本校	57	0	0.0%	15	0	1	0	0.0%	57	0	0.0%	47	0	0.0%
	分校	8	0	0.0%	0	0	0	0	-	8	0	0.0%	2	0	-
	計	65	0	0.0%	15	0	1	0	0.0%	65	0	0.0%	49	0	0.0%
計	本校	529	328	62.0%	195	5	2	1	3.0%	530	389	73.4%	106	22	20.8%
	分校	8	0	0.0%	0	0	0	0	-	8	0	0.0%	2	0	-
	計	537	328	61.1%	195	5	2	1	3.0%	538	389	72.3%	108	22	20.4%

資料:スポーツ健康課

第2節 勤労青少年福祉施設

勤労青少年に対して、各種相談に応じ、必要な指導を行い、レクリエーション、クラブ活動、その他勤労の余暇に行われる活動のための便宜を供与する等、勤労青少年の福祉に関する事業を総合的に行うことを目的とする施設として、平成25年4月1日現在、県内に11か所の勤労青少年ホームが設置され、勤労青少年が利用している。

第9-2-1表 勤労青少年ホーム所在地

(平成25年4月1日現在)

名称	所在地	TEL
八戸市勤労青少年ホーム	八戸市沼館2丁目13の20	(0178)22-8612
青森市	青森市松原1丁目6の3	(017)735-1649
弘前市	弘前市大字五十石町7	(0172)34-4361
むつ市	むつ市大湊上町3の12	(0175)24-2410
三沢市	三沢市幸町1丁目7の5	(0176)53-5714
十和田市	十和田市西三番町2の12	(0176)23-6708
黒石市	黒石市大字内町24の1	(0172)53-1612
三戸町	三戸郡三戸町大字川守田字関根4の1	(0179)22-0173
大間町	下北郡大間町大字大間字大間平41の7	(0175)37-4346
野辺地町	上北郡野辺地町字中道20の1	(0175)64-9657
平内町	東津軽郡平内町大字小湊字小湊79の3	(017)755-3945

資料:労政・能力開発課

第3節 児童厚生施設

児童厚生施設は、広く一般児童のため健全な遊びを与えてその健康を増進し、情操を豊かにするためのものであり、児童憲章にいう「児童はよい環境の中で育てられる」という精神を具現化したものである。

① 小型児童館・児童センター

小型児童館は、小地域を対象として児童の集団的及び個別的指導を行うとともに、母親クラブ、子ども会等の地域組織活動の育成助長を図るなど児童健全育成に関する総合的な機能を果たす拠点として設置されているものであり、平成25年4月1日現在73館（休止中含む。）となっている。

また、児童の体力低下、運動ぎらい等が問題となっていることから、従来の小型児童館に体力増進機能を加えた児童センターの整備を図ってきており、平成25年4月1日現在28館となっている。

第9-3-1表 市郡別児童館・児童センター設置状況 (平成25年4月1日現在)

市 部		郡 部	
区分	設置数 (か所)	区分	設置数 (か所)
青森市	17 (1)	東津軽郡	1
弘前市	26 (9)	西津軽郡	0
八戸市	15 (9)	中津軽郡	0
黒石市	6 (2)	南津軽郡	2
五所川原市	0	北津軽郡	0
十和田市	0	下北郡	0
三沢市	9 (4)	上北郡	9 (3)
むつ市	3	三戸郡	9
つがる市	1		
平川市	3		
計	80 (25)	計	21 (3)
県 計			101 (28)

※ () 内は、児童センターの再掲

第9-3-2表 児童館・児童センターの利用状況 (1日あたり)

年度	区分	H20		H21		H22		H23		H24	
		人員 (人)	割合 (%)	人員 (人)	割合 (%)	人員 (人)	割合 (%)	人員 (人)	割合 (%)	人員 (人)	割合 (%)
学童	任意利用	362	8.9	297	7.7	282	7.6	246	6.7	217	5.8
	集団利用	3,406	83.7	3,263	84.8	3,179	85.5	3,219	87.4	3,293	88.7
	計	3,768	92.6	3,560	92.6	3,461	93.1	3,465	94.0	3,510	94.6
幼児	任意利用	135	3.3	109	2.8	92	2.5	102	2.8	103	2.8
	集団利用	168	4.1	177	4.6	164	4.4	118	3.2	99	2.7
	計	303	7.4	286	7.4	256	6.9	220	6.0	202	5.4
合計		4,071	100.0	3,846	100.0	3,717	100.0	3,685	100.0	3,712	100.0

② 児童遊園

児童遊園は、広場、遊具など児童の創意、工夫を生かすことができる設備を有し、児童の自主性、社会性及び創造性を高めるよう遊びの指導を行う施設である。

第9-3-3表 児童福祉法による児童遊園整備状況 (平成25年4月1日現在) (単位:か所)

区 分	公 立	私 立	計
整 備 数	43	0	43

資料:こどもみらい課